

# 平成 20 年度 全国学力・学習状況調査の結果

## — 目 次 —

### 1 結果の概要

### 2 教科に関する分析と考察

小学校 国語	.....	P1～
小学校 算数	.....	P5～
中学校 国語	.....	P9～
中学校 数学	.....	P13～

#### 各教科の構成

##### ○ 全体考察

領域別、問題別、質問紙調査から見られる成果と課題、指導の方向を示しました。（文の最初の◇は成果に関する事項、◆は課題に関する事項を示します）

##### ○ 問題ごとの考察

各教科、「1 調査問題」「2 学習・指導の状況」「3 指導改善に向けて」の項目で、問題を3問～4問取り上げました。

### 3 生活習慣等に関する質問紙調査結果.....P17～

質問紙調査は学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査を行いました。調査の結果から本市の状況を把握・検証しました。また、学力調査の正答率と照らして相関が見られるかどうかなどについて分析・考察しました。

（平成 20 年 10 月）

松本市教育委員会  
市校長会学力調査検討委員会

**問い合わせ先**

**[部課名]** 松本市教育委員会教育部学校教育課指導室

**[連絡先]** 電話 : 0263-33-4397 FAX : 0263-34-3206

## 平成 20 年度全国学力・学習状況調査の結果について

松本市教育委員会  
市校長会学力調査検討委員会

### 1 趣旨

本年 4 月に実施した「平成 20 年度全国学力・学習状況調査」の本市の結果について、市立小中学校全体の調査結果の分析と考察を行いましたのでお知らせします。

### 2 調査の概要

#### (1) 調査の対象学年と実施した学校数・児童生徒数

対象学年	対象学校数	学校数(実施率)	実施した児童生徒数
小学校第 6 学年	30 校	30 校(100%)	1,969 人
中学校第 3 学年	18 校	18 校(100%)	1,817 人

#### (2) 調査の内容

##### ① 教科に関する調査

ア 主として「知識」に関する問題〔国語 A, 算数・数学 A〕

イ 主として「活用」に関する問題〔国語 B, 算数・数学 B〕

##### ② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

#### (3) 調査日

平成 20 年 4 月 22 日（火）

### 3 結果の概要

#### (1) 教科に関する調査結果の概要

本市の調査結果は、対象学年の小学校第 6 学年、中学校第 3 学年ともに国語、算数・数学の各教科で、全国とほぼ同程度の結果でした。各教科の概要は次のとおりです。

表記については、平均正答率 8 割程度を「定着している」とし、ほぼ 6 割以下を「課題がある」などとしました。また、B 問題も同様に「身につけている」「課題がある」としました。

なお、本調査は、国語、算数・数学の 2 教科のみであることと、必ずしも学習指導要領全体を網羅しているものではありませんので、本調査結果は、児童生徒が身に付ける学力の一部であることをご留意ください。

#### 【小学校】

- ① 国語 A では、発表原稿の工夫や文章の内容に合わせて小見出しを書くことは定着していますが、文章の構成をとらえて推敲することに課題があります。国語 B では、相手や目的に応じた内容や質問する順序を考えながら聞く力はおおむね身につけていますが、物語を読むとき、登場人物の特徴をとらえ、場面の展開にかかわる言動などから、物語全体を把握することに課題があります。
- ② 算数 A では、数と計算の領域において、整数、小数、四則の混合した計算力は定着しています。量と測定の領域では、量の大きさについての豊かな感覚を身に付けることに課題があります。算数 B では、グラフから情報を読み取ったり、事象から規則性を読み取ったりする力はおおむね身につけています。割合の考え方をういたり、グラフの特徴を基に判断したりする場面で、両者の違いや理由を数学的に表現することに課題があります。

## 【中学校】

- ① 国語Aでは、昨年同様に語句の意味を理解し適切に使うことや、漢字の読み書きの力はおおむね定着しています。論理の展開に即して内容を読み取ることや評価・批評することに課題があります。国語Bでは、登場人物の人間関係を整理し、心情をとらえることはおおむね身につけていますが、昨年と同様に伝えたい事柄が明確に伝わるように書くことに課題があります。
- ② 数学Aでは、図形の領域において、平行線の性質の理解はよく定着しています。数量関係の領域において、グラフを用いて変域を理解することに課題があります。数学Bでは、複数の事象に共通する数量関係を見いだして、統合的にとらえる力がおおむね身につけています。昨年同様に数学的な解釈にもとづいて理由を説明することには課題があります。

## 【国語について】

- ① 小・中学生ともに、漢字の読み書きなどの言語事項の領域は、昨年と同様に定着し満足できる状況です。各学校で引き続き工夫して取り組んでいる成果と思われます。
- ② 昨年に引き続き、たよりやレポートなどの資料から情報を読み取り活用する活動を、他教科とも関連させながら取り組んでいく必要があります。
- ③ 作文学習では、取材メモ、構成、記述、推敲の仕方など、一連の過程に即した指導を行う必要があります。

## 【算数・数学について】

- ① A（主として「知識に」関する問題）に関しては、おおむね定着しています。基礎的基本的な学力の定着を図る取り組みの成果と思われます。
- ② 考えの過程や根拠を明確にして説明し合う活動を通して、考え合う力を高める学習をより進めていく必要があります。
- ③ 学習意欲と教科の関連については、算数・数学で強い相関関係が見られます。学習意欲を高める授業展開の工夫を一層進める必要があります。

## (2) 質問紙調査の結果の状況

- ① 基本的な生活習慣が身に付いていると教科に関する結果がよい傾向にある相関関係が、昨年度同様に見られます。
- ② 朝食、夕食共に家の人と食べている割合が全国と比べて高い状況にあります。特に夕食は、小中学生ともに9割程度となっています。
- ③ テレビ等の視聴やテレビゲームをする時間は、全国と同様、小中学生ともに昨年より増加傾向にあり、3～4時間以上の児童生徒がいる現状への対応を今後考えていく必要があります。
- ④ 携帯電話の所持率、使用率は全国に比べて低い状況にあります。
- ⑤ 地域行事への参加は、昨年度に引き続き、非常に高い状況にあります。特に小学生は、高い水準にありますが、中学生も全国と比べて高い状況にあります。

## 4 今後の対応

- (1) 市立小中学校では、10月中旬を目途に自校の結果の概要及び分析と考察を保護者や地域に公表する予定です。
- (2) 市教育委員会では、各学校の分析と考察をもとに授業改善や生活改善への取り組みをすすめ、各学校の成果や課題を持ち寄っての研修会を2月上旬に開催する予定です。